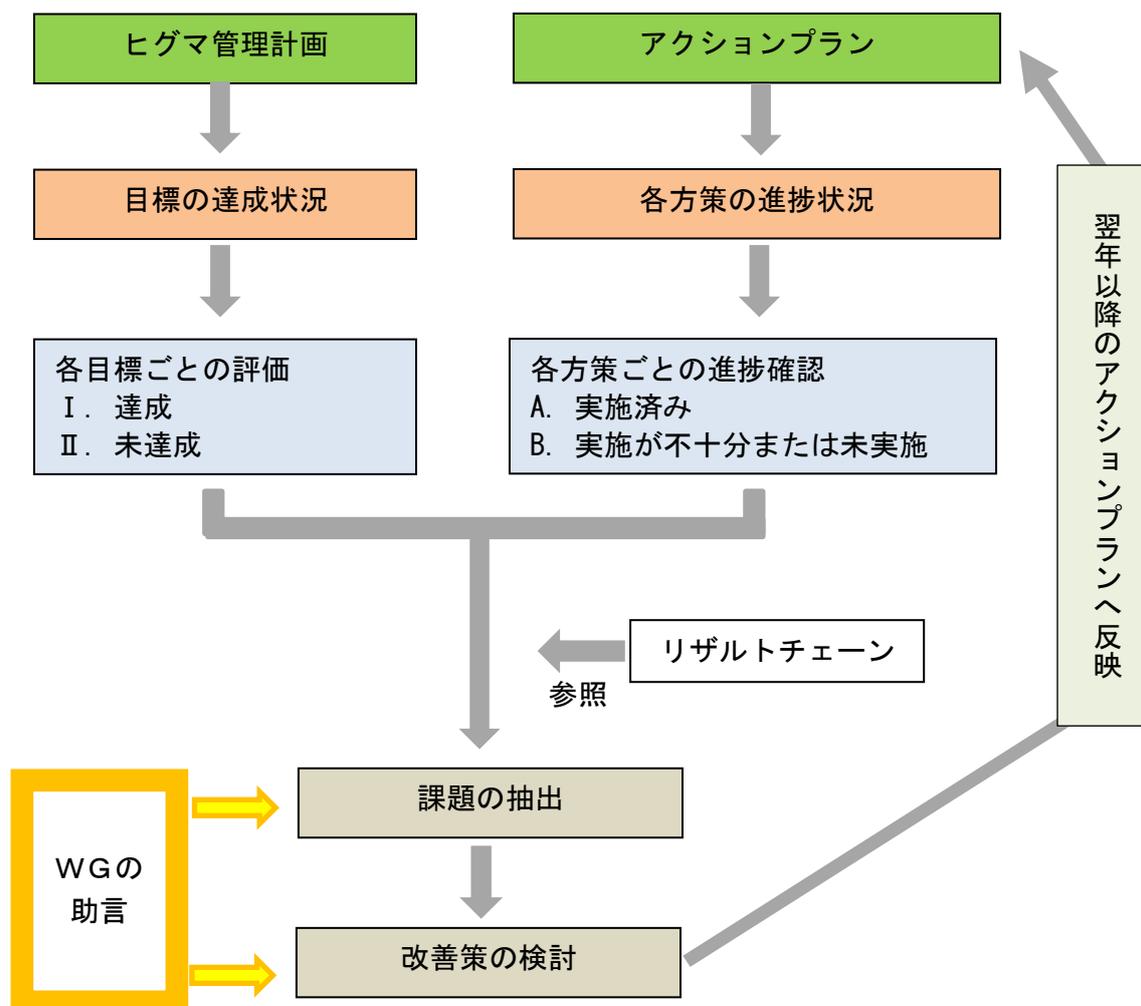


ヒグマ管理計画アクションプランに係る毎年度の評価検証手法（案）

アクションプランによる各方策の実行結果については、管理計画に基づく目標の達成状況を踏まえた評価検証を毎年度ごとに行い、翌年度のアクションプランの計画に反映していくこととしている。

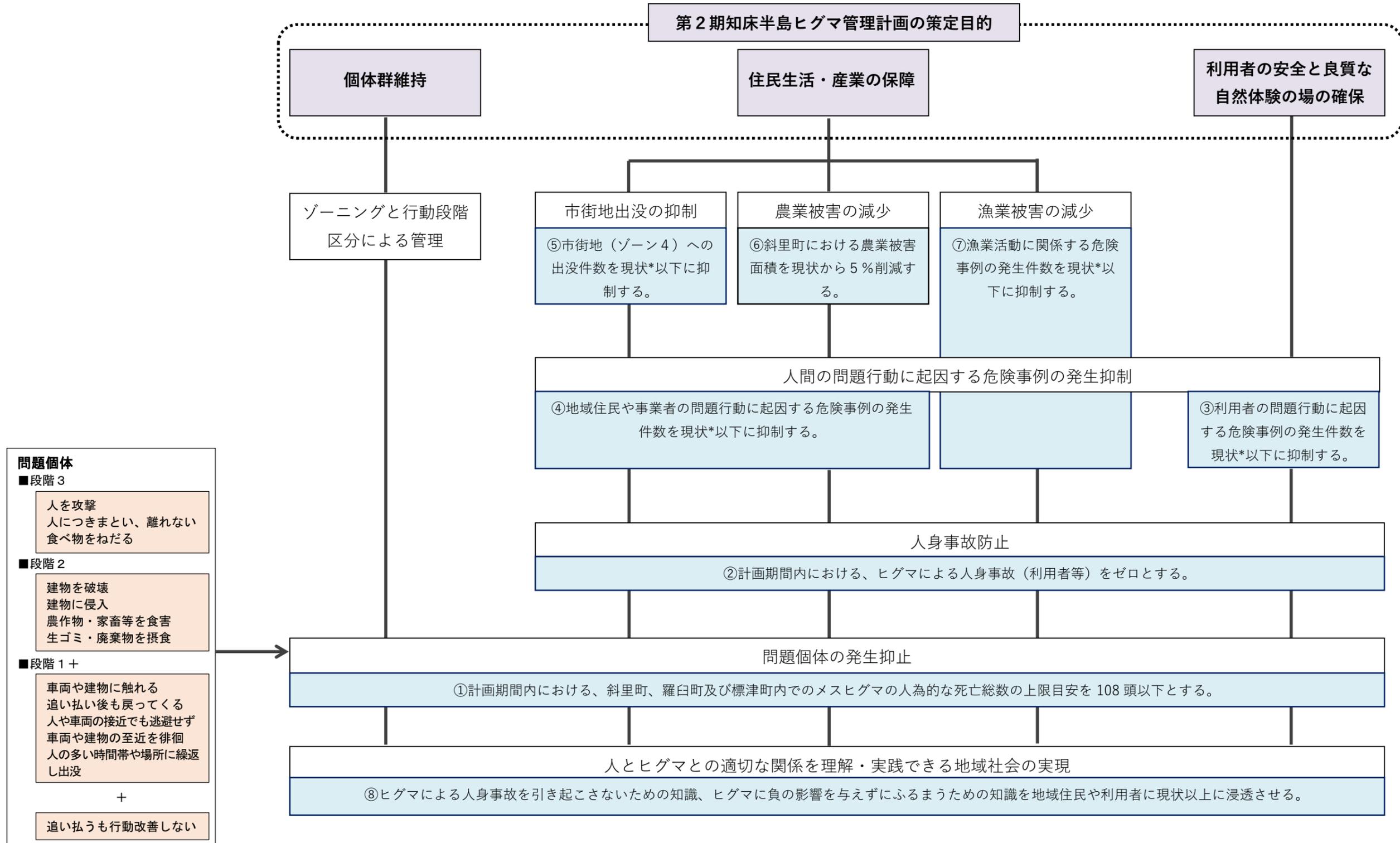
評価検証の実施に当たっては、管理計画に基づく8つの目標と各目標を達成するために位置づけた各方策の因果関係を示した相関図（リザルトチェーン）念頭に、各目標ごとの達成状況と各方策の進捗状況に基づく評価検証を行う。

1. 評価検証の流れ（知床ヒグマ対策連絡会議が実施）



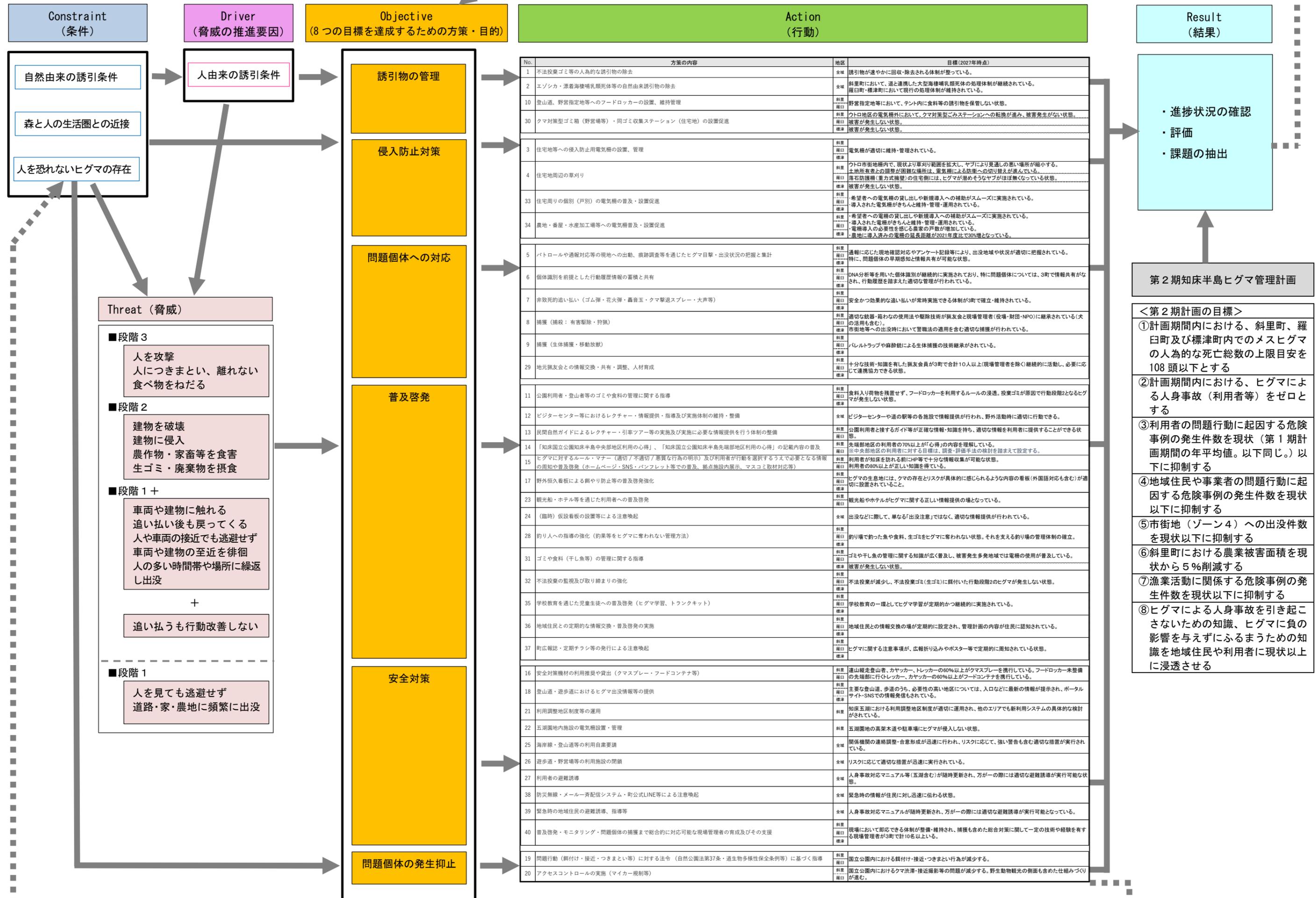
2. リザルトチェーン

(1) 第2期知床半島ヒグマ管理計画の策定目的と8つの目標(①~⑧)の関係図



※「現状*」は、「第1期計画期間の年平均値」を指す。

(2) リザルトチェーン



3. 評価検証手法（案）【目標③を例として】

■目標の達成状況

【目標③】
利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状※以下に抑制する。

※第1期計画期間の年平均値

【目標値】
単年目安：19件以下
計画期間累計：114件以下

【結果】
2021 (R3) 年度：49件
2022 (R4) 年度：28件

■目標③に対応する各方策の実施状況（グレー：実施、黄：実施不十分または未実施）

Objective
誘引物の管理
問題個体への対応
普及啓発
安全対策
問題個体の発生抑制

方策No.	方策の内容	地区	計画期間 2022～2027(令和4～令和9)年度					目標 (2027年時点)
			2022年 (令和4)	2023年 (令和5)	2024年 (令和6)	2025年 (令和7)	2026年 (令和8)	
1	不法投棄ゴミ等の人為的な誘引物の除去	全域	継続実施					誘引物が速やかに回収・除去される体制が整っている。
10	登山道、野営指定地等へのフードロッカーの設置、維持管理	斜里	維持管理の継続	同左、ピーク時を中心に利用状況の評価	同左、評価を踏まえて改善事項を検討	同左、配置・数・構造等を改善	同左	利用状況などの再評価、次期管理計画に向けて配置・数等の見直しを検討
		羅臼	維持管理の継続	同左、御座山線野営可能地点での必要性を検討	同左、増設の場合は配置・数等を具体化	同左、増設	同左	
30	クマ対策型ゴミ箱（野営場等）・同ゴミ収集ステーション（住宅地）の設置促進	斜里	追加設置可能な場所の検討・調整継続	同左	同左、資金調達の検討	同左、順次設置	同左	ウトロ地区の電線橋外において、クマ対策型ゴミステーションへの転換が進み、被害発生がない状態が確認されている。
		羅臼	設置可能場所の検討・戸別管理の徹底	同左	同左	同左、必要に応じて資金調達、順次設置	同左	被害が発生しない状態。
		標準	設置が必要な場所の検討	同左	設置可能場所の検討	同左、必要に応じて資金調達、順次設置	同左	被害が発生しない状態。
5	パトロールや通報対応等の現地への出動、痕跡調査等を通じたヒグマ目撃・出没状況の把握と集計	斜里	目撃アンケートの収集、通報対応、パトロール、居残などの実施	同左	同左	同左	同左	通報に応じた現地確認対応やアンケート記録等により、出没地域や状況が適切に把握されている。
		羅臼	通報対応、パトロール、記録などの実施	同左	同左	同左	同左	特に、問題個体の早期感知と情報共有が可能な状態。
7	非致死的追い払い（ゴム弾・花火弾・轟音玉・クマ撃退スプレー・大声等）	斜里	轟音玉、ゴム弾、花火弾等による追い払いの実施	同左	同左	同左	同左	安全かつ効果的な追い払いが常時実施できる体制が5割で確立・維持されている。
		羅臼	轟音玉、ゴム弾、花火弾等による追い払いの実施	同左	同左	同左	同左	
		標準	轟音玉、ゴム弾等による追い払いの試行	同左	同左	同左	同左	
8	捕獲（捕殺：有害駆除・狩猟）	斜里	ベテラン猟友会等からの技術継承、訓練の実施	ベテラン猟友会等からの技術継承、訓練の実施	同左、方策No.39の図上演習を通じて市街地等への出没時の課題共有	同左	同左	適切な銃器・荷物の使用法や駆除技術が猟友会と現場管理者（役場・財団・NPO）に継承されている（次の活用も含む）。市街地等への出没時において警備法の適用を含む適切な捕獲が行われている。
		羅臼	ベテラン猟友会等からの技術継承、訓練の実施	同左	同左	同左	同左	
		標準	NPOベテラン職員からの技術継承	同左	同左	同左	同左	
11	公園利用者・登山者等のゴミや食料の管理に関する指導	斜里	近視時に現地で随時指導を実施する他、ポータルサイトやSNS等による情報発信を実施	同左	同左	同左	同左	食料入り荷物を残さず、フードロッカーを利用するルールの浸透。投棄ゴミが原因で行動段階2となるヒグマが発生しない状態。
		羅臼	近視時に現地で随時指導を実施する他、ポータルサイトやSNS等による情報発信を実施	同左	同左	同左	同左	
		標準	近視時に現地で随時指導を実施する他、ポータルサイトやSNS等による情報発信を実施	同左	同左	同左	同左	
12	ビジターセンター等におけるレクチャー・情報提供・指導及び実施体制の維持・整備	全域	既存施設で情報提供	同左	同左	同左	同左	ビジターセンターや道の駅等の各施設で情報提供が行われ、野外活動時に適切に行動できる。
13	民間自然ガイドによるレクチャー・引率ツアー等の実施及び実施に必要な情報提供を行う体制の整備	斜里	SNS等での情報提供	同左	同左	同左	同左	公園利用者や接するガイド等が正確な情報・知識を持ち、適切な情報を利用者へ提供することができる状態。
		羅臼	SNS等での情報提供	同左	同左	同左	同左	
		標準	SNS等での情報提供	同左	同左	同左	同左	
14	「知床国立公園知床半島中央部地区利用の心得」、「知床国立公園知床半島先端部地区利用の心得」の記載内容の普及	斜里	ポータルサイトやSNS等での情報発信、先端部地区の利用者への調査実施	同左、他WG・検討会と調整の上、中央部地区の利用者への調査・評価手法を検討	同左	同左	同左	先端部地区の利用者の70%以上が「心得」の内容を理解している。 ※中央部地区の利用者に対する目標は、調査・評価手法の検討を踏まえて設定する。
		羅臼	ポータルサイトやSNS等での情報発信、先端部地区の利用者への調査実施	同左	同左	同左	同左	
15	ヒグマに対するルール・マナー（適切/不適切/悪質な行為の明示）及び利用者が行動を選択するうえで必要となる情報の周知や普及啓発（ホームページ・SNS・パンフレット等での普及、拠点施設内展示、マスコミ取材対応等）	斜里	ポータルサイト・SNS・マスコミ等での情報発信、デスタンスキャンペーンの継続	同左	同左	同左	同左	利用者が知床を訪れる前ICHP等で十分な情報収集が可能な状態。 利用者の80%以上が正しい知識を得ている。
		羅臼	ポータルサイト・SNS・マスコミ等での情報発信、デスタンスキャンペーンの継続	同左	同左	同左	同左	
17	野外恒久看板による網やり防止等の普及啓発強化	斜里	道路管理者との協議	同左、資金調達の検討	同左	外国語にも対応したものを順次整備（国道30号、道庁公園線）	同左	同左
		羅臼	道路管理者、施設管理者との協議	同左、資金調達の検討	同左	外国語にも対応したものを順次整備（国道30号、道庁公園線）	同左	同左
		標準	道路管理者、施設管理者との協議	同左	同左	外国語にも対応したものを順次整備（海岸等）	同左	同左
23	観光船・ホテル等を通じた利用者への普及啓発	斜里	観光船・ホテル関係者を対象とした情報交換会の実施を検討	観光船・ホテル関係者を対象とした情報交換会の実施	同左	同左	同左	観光船やホテルがヒグマに関する正しい情報提供の場となっている。
		羅臼	観光船・ホテル関係者を対象とした情報交換会の実施	同左	同左	同左	同左	
		標準	観光船・ホテル関係者を対象とした情報交換会の実施	同左	同左	同左	同左	
24	（臨時）仮設看板の設置等による注意喚起	全域	必要に応じて、土地所有者等と連携・調整しながら実施					出没などに関して、単なる「出没注意」ではなく、適切な情報提供が行われている。
28	釣り人への指導の強化（釣果等をヒグマに奪われない管理方法）	斜里	道の規制の状況を見極めつつ、個別の釣りを守る余等と連携してSNS等を含む各種啓発活動を実施	同左	同左	同左	同左	同左
		羅臼	道の規制の状況を見極めつつ、SNS等を含む各種啓発活動を実施	同左	同左	同左	同左	同左
		標準	道の規制の状況を見極めつつ、SNS等を含む各種啓発活動を実施	同左	同左	同左	同左	同左
32	不法投棄の監視及び取り締まりの強化	斜里	一部で自動カメラを設置する等の監視強化を継続	同左	同左、必要に応じて条例改正の検討等	同左	同左	同左
		羅臼	一部で自動カメラを設置する等の監視強化を継続	同左	同左、必要に応じて条例改正の検討等	同左	同左	同左
		標準	一部で自動カメラを設置する等の監視強化を継続	同左	同左	同左	同左	同左
16	安全対策機材の利用推奨や貸出（クマスプレー・フードコンテナ等）	斜里	自然センター、木下小屋で貸出を継続（フードコンテナはセンターのみ）、HP等での発信	同左、入林場による調査・集計	同左	同左	同左	同左
		羅臼	羅臼V.C.ルサフHで貸出継続、HP等での発信、先端部地区の利用者への調査実施	同左、入林場による調査・集計	同左	同左	同左	同左
18	登山道・遊歩道におけるヒグマ出没情報等の提供	斜里	登山口、主要歩道入口で掲示、「知床のひくま」知床情報玉手箱」、SNS等でも情報発信	同左	同左	同左	同左	同左
		羅臼	登山口で掲示、「知床のひくま」、「知床情報玉手箱」、SNS等でも情報発信	同左	同左	同左	同左	同左
		標準	必要に応じて掲示等を実施	同左	同左	同左	同左	同左
21	利用調整地区制度等の運用	斜里	知床五湖における運用継続	同左、五湖以外のエリアにおける利用者の行動制限を含む監視システムの検討	同左	同左	同左	同左
19	問題行動（餌付け・接近・つきまとい等）に対する法令（自然公園法第37条・道生物多様性保全条例等）に基づく指導	斜里	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行
		羅臼	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行	問題法に基づく強めの指導、指示書交付、警察との連携等の試行
20	アクセスコントロールの実施（マイカー規制等）	斜里	五湖・ワッカ方面のマイカー規制継続、新方式試行事業（バスデイズ）の継続（2年目）	ワッカ活用事業と連動したシャトルバス運行、新方式（バスデイズ）の効果検証	効果検証を踏まえた新方式（バスデイズ）本格運用の検討	同左	同左	同左
		羅臼	知床峠～羅臼湖入口方面の必要等の検討	知床峠～羅臼湖入口方面の必要等の調査	同左	同左	同左	同左

■評価検証

2022（令和4）年度の各方策の進捗評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
2023（令和5）年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
改善策（2024年度アクションプランへ反映）	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○